

きょうさいだより



佐世保共済病院写真コンテスト作品 森本 孝子 【棚田の初秋】

理 念

博愛の精神

人の和

自己研鑽

目 標

1. 私達は、地域のみなさんのニーズに応え、信頼してもらえる医療をめざします。
2. 私達は、他の医療機関と共に、地域のみなさんの診療と健康増進に努めます。
3. 私達は、新しい医学、医療の知識と情報を取り入れ、常に自己啓発に努めます。
4. 私達は、それぞれが自己の責任を自覚し、安全な診療をめざします。
5. 私達は、病める人の苦しみや喜びを分かち合う心をもって診療に努めます。

I N D E X

- 院長挨拶、診療部長就任のあいさつ…………… p.1
- 佐世保共済病院市民公開講座開催、病棟紹介…………… p.2
- 診療活動の現況…………… p.3
- 新採用医師の紹介、佐世保共済病院納涼会…………… p.5
- 子供の頃の我が家の医療、ミニ個展、編集後記…………… p.6
- 外来診療担当表…………… p.7

ごあいさつ

院長 福井 仁士



8月10日に開催しました脳卒中市民公開講座は多数の方々にご参加いただき、盛会裡に終了しました。皆様のお役に立てたのであれば幸いに存じます。

去る7月末に改正健保法が参議院本会議で可決され成立しました。これにより医療費の自己負担率が上がり、本年10月から70歳以上の高齢者では定率1割負担(年収約630万円以上では2割負担)、明年4月からサラリーマンの場合、現行の2割から3割となります。政府管掌健康保険の保険料率の引き上げもおこなわれます。景気が低迷するなか、国民の生活負担はさらに増すこととなります。また、医療施設経営にとっても、本年4月の診療報酬引き下げによるとともに、大きな影響を受けることになるでしょう。厚生労働省は、効率的で質の高い医療サービスの樹立を目標に挙げていますが、医療提供にむしろ悪い影響を与えないか危惧します。問題は複雑でいろいろな絡みがありますので、国会で十分な時間をかけて審議してもらいたかったところですが、与党だけの強行採決で決定されたことに割り切れない思いがします。

皆さんにとって、病気を予防することが最も大事なことです。今回の市民講座でも講演があったように、生活習慣病にならないように、また、生活習慣病になっていても進行しないように努力していただきたいと思います。

診療部長就任のあいさつ

新診療部長 木寺 義郎



きでら よしろう
木寺 義郎

- 出身地 佐賀県
九州大学医学部卒業
- 主な職歴
・昭和54年
九州大学産婦人科助手
・昭和57年
佐賀医科大学産婦人科助教授
- 専門領域
婦人科腫瘍一般・細胞診断学
- 所属学会
日本婦人科腫瘍学会
Int. Academy Cytology
Int. Gynecol. Cancer Soc.

佐世保共済病院に産婦人科医として勤務して17年になりましたが、本年4月より産婦人科部長兼任の診療部長を命じられました。これまでの17年を振り返ると医療を取り巻く環境の急激な変化には戸惑う程です。ただ現実に医療に携わる者としては、安全で高度の医療を提供する努力を続ける他はありません。当面の当院の課題としては病院機能評価を受審して承認を受けることが挙げられます。私は現在MRM(医療安全対策)、病診連携推進、クリティカルパスの院内各委員会に関わっておりますが、これらの活動内容はすべて関連しており、病院機能評価の点でも重要なものです。他に緩和医療、褥創対策チームも発足しましたので、今後これらの活動が活発に行われるように努力したいと思います。

一方、医療の役割分担が医療経済の効率化のためには避けられない事態となりつつあります。できることと依頼しなければならないことを明確にして、情報が円滑に共有できるように周囲の診療所、病院ともお互いに顔の見える関係になることが必要だと思います。これらの目標達成のために皆様のご協力を宜しくお願い致します。

去る、8月10日にアルカスSASEBOにおいて、第2回目の学術講演会を開催いたしました。今回は、医療に関する学術講演会の機会が少ない県北地域の一般市民の皆さんに、医療の最新情報を提供することを目的に市民公開講座とし、現代社会の身近な医療問題である脳卒中にスポットを当て、人として避けて通れない老化と生活習慣病から如何に脳を守り生かしていくか、予防医学分野から最先端医療技術までを分かり易く講演していただきました。植村先生の巧みな話術で始まり、開演から4時間の講演時間も長さを感じさせない内容であり、一般参加者から「こういう機会を与えて頂き有難うございました。大変でしょうがぜひ続けて下さい。」との声を寄せていただきました。

ご後援いただきました佐世保市、佐世保市医師会、長崎新聞社、NHK長崎放送局、長崎文化放送、及びTVSテレビ佐世保に感謝申し上げます。

8月10日(土)市民公開講座次第

- ◆ 植村 研一先生 (浜松医科大学名誉教授、愛知医科大学教授)
演題「脳を守り活かすコツ」
- ◆ 端 和夫先生 (札幌医科大学名誉教授、脳ドック学会理事長)
演題「脳ドックとは」
- ◆ 後藤 勝弥先生 (太田記念病院副院長)
演題「脳血管内治療とは」
- ◆ 福井 仁士院長 (九州大学名誉教授、佐世保共済病院院長)
演題「もやもや病、小児に多い脳卒中」



病棟紹介－保育士登場－

小児科病棟看護師長 井口 恵美子

小児病棟は、未熟児室10床を入れて病床数計40床で、看護師25名、保育士1名、看護助手5名のスタッフです。4年前の新病棟への移転を機に、未熟児室が小児病棟の中央に置かれて開放的な空間に変貌しました。面会時間を10時から22時迄の12時間に広げ、できるだけ親子関係が自然な状態になるよう心がけています。また病室は手作りの壁紙で部屋のひとつひとつに動物の貼り絵を施すなど、こども達が親しめるような個性的な雰囲気作りに努めています。

最近のトピックスとしては、何と言っても7月1日より保育士がスタッフの一員として加わったことがあげられます。病棟の一角にあるプレイルームを主な活動の場として、特に不安感の強いこどもや家族の状態にあわせて、きめ細かい対応を行っています。

病室を訪問したり、こどもの注文する遊びに応じたりと、1ヶ月を過ぎてその仕事内容は順調な広がりを見せているようです。

看護の視点と保育の視点の両面を生かしながら、不安のない入院生活を送っていただけるよう、今後も努めていきたいと思っております。



小児科病棟スタッフ(前列右端が井口看護師長)

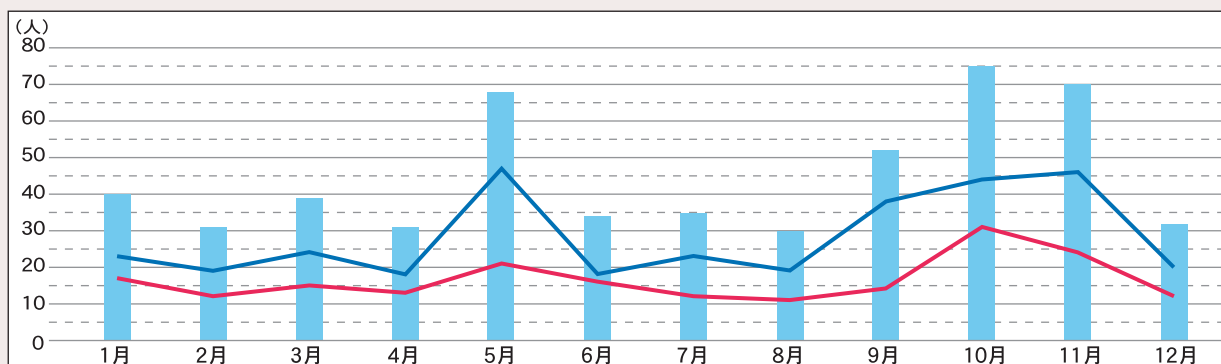


〈はじめに〉 小児科は、生まれたばかりの新生児から成人になるまでの子供達、実際には大体中学生までを対象として診療を行う部門です。少子化により小児人口は少なくなっていますが、核家族化に伴う育児不安の増加など以前には考えられなかった問題が生じており、小児科の活躍の場は一層広がっていると申せましょう。全国的に問題となっている小児科医の過労状態は佐世保市においても生じています。当科の4名の小児科医のうち2名は女医さんで、頑張っています。

〈入院の状況について〉 昨年の、当科の入院患者さんは、未熟児室に入院した新生児を除いて、延べ1,558名でした。小児科は一般には入院患者数の季節変動が大きいと言われてはいますが、当科ではそれ程、目立ちません。最も少なかった9月が109名で多かった5月が168名、月平均120名程度でした。疾患としては、発熱を主訴とする、気管支炎・肺炎・咽頭炎・腸炎・髄膜炎等の感染症が最も多い傾向にあります。最近ではウイルス感染症において、迅速診断が可能となってきていますが、当科においてもインフルエンザウイルス・ロタウイルス・アデノウイルス・RSウイルスに関しては検査が可能で、よりの確な治療を行うことができるようになってきています。

次に年齢別の状況ですが、未熟児室入院の新生児を除いてもやはり0歳児がトップで363名、新生児を含むと一層多くなります。次に1歳児が322名、2歳児が190名、そして成長とともに入院を要する子供達は少なくなっていくます。小学生7歳～12歳が、30名程度、中学生になると15名程度になっています。高校生以上も小児科に入院していますが、慢性疾患で引き続き小児科に通院している患者さんです。

〈気管支喘息について〉 当科では、気管支喘息や喘息様気管支炎の患者さんが多く、外来・入院治療を精力的に行っています。いわゆるアレルギー疾患は、気密性の高い住居環境や食生活の欧米化などいろんな原因で増加していると言われてはいますが、その一つの気管支喘息も増加しており最近の調査では学童において6.5%となっています。気管支喘息は、日頃からの発作のコントロールが重要です。きちんと定期的に通院していただき、発作状況により治療内容を工夫する必要があります。昨年の入院の状況を表1に示します。気管支喘息発作は、一般的に春と秋に多くなると言われていますが、昨年は5月が68名に対して10月、11月は70名以上であり、最近では秋の方が入院される場合が多いようです。小児期の気管支喘息の治療の目標は、小児期に治癒させることです。この達成はなかなか大変なことですが、いつの日かこの発作がなくなることを信じて、治療を続けていただきたいと思います。



(表1) 気管支喘息の月別患者数 — 男 — 女 — 合計

次に年齢別の状況を表2に示します。やはり低年齢児が入院を要する（表2） 気管支喘息の年齢別患者数
 場合が多く、3歳頃から減少していました。小学生になると少なくな
 って、中学生はもっと少ない状況です。小中学生で発作が落ち着いて
 いない子供さんの場合はより積極的な治療を行う必要があります。気
 管支喘息だから、発作が起こるのは当然と思うことは間違いです。発
 作をコントロールして、子供本来の生活に戻してあげるべきです。み
 んなと一緒に運動も勉強も出来る状態を達成することが、我々の診療
 の目標となっています。

	男	女	計
0歳	71	40	111
1歳	76	37	113
2歳	56	34	90
3歳	31	23	54
4歳	29	18	47
5歳	13	16	29
6歳	5	17	22
7歳	7	4	11
8歳	5	7	12
9歳	7	6	13
10歳	3	2	5
11歳	9	3	12
12歳	3	2	5
計	315	209	524

〈昨年流行した麻疹について〉 昨年は麻疹による小児科入院が例年
 よりずっと多くみられました。年齢分布は1歳児が19名でトップ、つい
 で0歳児が15名でした。麻疹は感染すると、ほぼ100%発症するため予
 防が大切です。麻疹の予防接種は1歳になるとできますので、お誕生日
 がきたら、受けるようにしていただきたいと思います。なお当科では診療所と病院の役割分担の見地か
 ら実施しておりませんので、近くの小児科医院で予防接種をしてもらって下さい。1歳以上の子供達が
 みんな麻疹の予防接種を受けるようになると、麻疹の流行が消失し、それにより0歳児の麻疹もなくな
 ると思われます。アメリカでは、麻疹の予防接種率が2000年で90.5%と高く、これにより発生が極めて少
 なくなっています。これに対して日本では1999年で81.1%と低く、流行が繰り返されています。このため
 日本人がアメリカに行って麻疹を発症し、流行を引き起こすことがあり、日本は麻疹の輸出国とも言わ
 れています。このような汚名を返上するためにも麻疹の予防接種の接種率を上げる必要があります。

〈病棟保育士について〉 子供達にとっても入院ということは大変なことです。痛い思いもしなくては
 なりません、しかし元気になるのも早いのが小児の特徴です。入院中には少しでも日常に近い生活がで
 きるようにしてやる必要があります。このため本年7月より小児科病棟に保育士さんが配属されました。
 プレイルームで一緒に遊んだり、また病室でお話をしたり、病棟を明るくするようにいろんな絵を描い
 たりしてくれています。お母さん達の相談相手にもなってもらっています。今後も楽しい入院生活を送
 れるよう頑張ってもらおうと思っています。

診療案内

●外来診察日

月曜～金曜まで午前中毎日(担当医は裏面参照)

●乳児健診

火曜 午後1時より

●専門外来

慢性外来・・・水曜 午後2時より

神経外来・・・水曜 午後2時より

喘息外来・・・木曜 午後2時より



プレイルームで活躍中の保育士 百武さん

新採用医師の紹介



[外 科]
くたみ るみこ
朽網 留美子

- ① 出身大学・卒業年度
大分医科大学・H3
- ② 在籍医局
久留米大学 外科
- ③ 専門領域
消化器外科
- ④ 出身地/大分県
- ⑤ カップラーメンが好きです



[内 科]
まつなが けいじ
松永 圭司

- ① 福岡大学・H8
- ② 佐賀医科大学 内科
- ③ 消化器内科
- ④ 佐賀県
- ⑤ 趣味は読書です



[眼 科]
こばやし たけし
小林 武史

- ① 藤田保健衛生大学・H8
- ② 福岡大学 眼科
- ③ 眼科一般
- ④ 福岡県
- ⑤ 現在子育てに夢中です



[外 科]
やなぎ かつじ
柳 克司

- ① 藤田保健衛生大学・H9
- ② 久留米大学 外科
- ③ 消化器一般
- ④ 福岡県
- ⑤ ドライブ・ギャンブルが好きです



[内 科]
からしま えいじ
辛島 詠士

- ① 長崎大学・H12
- ② 九州大学 第一内科
- ③ 循環器
- ④ 福岡県
- ⑤ バスケットボール・写真イベントが好きです



[整形外科]
みずき やすひろ
水城 安尋

- ① 佐賀医科大学・H12
- ② 九州大学 整形外科
- ③ 整形外科一般
- ④ 福岡県
- ⑤ アルコールで意識消失することがあります…



[内 科]
ふかた みつひろ
深田 光敬

- ① 九州大学・H13
- ② 九州大学 第一内科
- ③ 内科一般
- ④ 大分県
- ⑤ よろしくお願いします

佐世保共済病院 納涼会

医事課 平田 和歌子

去る7月23・24日の両日、佐世保共済病院職員の納涼会が弓張の丘ホテルにおいて開催されました。

プールサイドのオープンテラスから九十九島と佐世保市内の美しい夜景を眺めながら、230名余りの参加者は日頃の緊張感から開放されて、食事や会話を十分に堪能していたようでした。

最後の夜には、海パン姿の2名の職員と共に、会場から熱いコールを受けた某ドクターが着衣のままプールに飛び込むというシーンもあり、参加者一同大きな歓声と笑顔に包まれて会場を後にしました。



明治生まれの母は、知人のオバチャン達に「よく効く」という話を聞いては、華岡青洲よろしくその効果を知るために家族を利用した。家族にとっては甚だ迷惑な話であった。

【ハゼ負け】薄揚げで患部を拭いて、それを火で炙^{あぶ}って醤油をつけて本人が食べる。少々薄気味悪いが味はまあまあ。

【尋麻疹】フノリを熱湯で溶かして湯呑茶碗一杯を鼻をつまんで飲む。まずい。

【止血】ヨモギの葉をよく揉んで傷口にあてて圧迫する。これは広く一般に行われた。

【化膿創】深爪したり、棘を爪の間に刺したりして化膿した場合、抗生物質もサルファ剤もない時代である。ドジョウを切り開いて皮の部分を患部にあてて包帯をする。最初はヒヤリとしていくらか気持ち良いが、痛みは止まらない。夜も眠れない日が続く、最後に爪が抜け落ちてそのあとやわらかい爪が生えてくる時の嬉しさ。

【麦粒腫】親がキザミ煙草をキセルで二・三服吸って、熱くなった雁首を患部にあてる。又は櫛を畳でこすって熱くなったところで患部にあてる。温めて排膿を早めるのである。

【解熱】ナメクジ、ミミズを飲み込む。勇気がいる。

【擦過傷】当時の消毒薬はヨードチンキ。アルコールが滲みるので早く蒸発させる為に団扇で扇ぎながら「痛ければイタチのくそ、痒ければカラスのくそ」とカアチャンが呪文をとなえてタクアンの匂いのする息をプップツと吹きかける。膝を擦りむいて家に帰る頃には痛みも薄らいでいる為か、これをやられると効いたような気にさせられるものである。再び家を飛び出して遊びの場へと急ぐ。



75才の今なお、元気で暮らせるのも、母の家庭療法のおかげか。

TOPICS 「ミニ個展」



1階小児科外来前の展示コーナーでは、印象派の画家スーラーを思わせる点描画5点が掲げられ、前を通る人達の目を楽しませています。

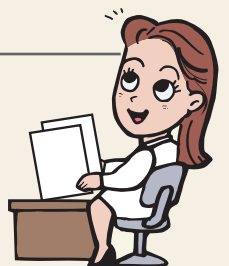
作者の中吉さおりさんは当院6階北病棟に勤務する看護師です。佐世保在住の画家森山一信先生に師事して、第55回創造展(東京)に入選するなど、旺盛な創作活動を展開しています。

展示コーナーは随時開放されており、ミニ個展の希望者などを募集しています。(お問い合わせは庶務課まで)

編集後記

病院職員として勤務する中で、患者さんからの笑顔と「ありがとう」の言葉に励まされ、元気付けられることがよくあります。医療に携わる人間として、患者さんに癒されるばかりではなく癒すことができるようになりたいと願う毎日です。この「きょうさいだより」も、人と人との関わりや癒しに一役買うことができればと思っています。

編集委員 平田 和歌子



科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
内科	部長	金谷庄藏			●		●				●		循環器疾患	
	医長	福山邦昭	●				●		●				肝臓、胆嚢、膵臓疾患	
	"	佐藤浩信			●		●				●		消化器疾患、膠原病	
	"	川崎千之	●		●				●				血液疾患	
	"	野口誠司			●				●		●		肝臓、胆嚢、膵臓疾患、消化器疾患	
	"	松見里美	●				●				●		一般内科、消化器疾患	
	"	車忠雄	●				●				●		循環器疾患	
	医員	日高孝子			●		●		●				呼吸器疾患	
	"	石橋貞利	●		●				●				消化器疾患	
	"	大塚容子	●						●		●		腎臓疾患	
	"	久間文明			●		●		●				循環器疾患	
	"	辛島詠士			●						●		循環器疾患、一般内科	
"	松永圭司	●				●				●		消化器疾患、一般内科		
"	深田光敬	●						●				一般内科		
	糖尿病教室				●		●		●		●		※詳細は内科外来へお尋ね下さい。	
小児科	医長	岡尚記	●		●						●		小児科一般	
	医員	古賀英子	●				●		●				小児アレルギー疾患	
	"	大坪善数			●				●				気管支喘息	
	"	原美智子					●				●			
		乳児健診					●							火曜PM1:00~
		慢性外来							●					水曜PM2:00~
	神経外来							●					水曜PM2:00~	
	喘息外来								●				木曜PM2:00~	
外科	外科顧問	松永章							●				一般外科、消化器科外科、血管外科	
	部長	江里口直文(●)					●				●		呼吸器外科、腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術	
	医長	田山光介	●				●						内視鏡下外科手術	
	医員	二又泰彦			●				●				(●)…月曜の江里口の診療は新患のみ受付	
	"	田中厚寿	●				●						※血管外科と呼吸器外科は月曜と水曜の午前	
	"	川畑方博			●						●		※月曜~金曜の午後は手術	
	"	原田洋			●						●		※詳細は外科外来へお尋ね下さい。	
脳神経外科	院長	福井仁士	●				●						脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎外科	
	部長	山川勇造							●		●		小児の神経外科、顔面痙攣	
	医員	濱田康宏	●						●				三叉神経痛の外科手術	
整形外科	部長	萩原博嗣	●				●				●		骨関節疾患全般	
	医長	中家一寿	●		●				●				・股・膝関節の関節形成術、人工関節置換術	
	医員	小澤慶一					●		●		●		・膝・肩・手・肘の鏡視下手術	
	"	芳田辰也	●		●						●		・脊椎外科、腰部疾患手術	
	"	斎田義和			●		●		●				・肩・手の外科(断肢再接着手術を含む)	
"	水城安尋	●		●		●				●		・リウマチ、スポーツ整形外科、足の外科など		
形成外科	医長	芳田辰也	●		●						●		先天性奇形、顔面外傷、癬痕形成、再建外科など	
皮膚科	医長	井上卓也	●	●	●		●		●	●	●		※火・金午後は手術(陥入爪等)	
	医員	米村真由	●	●	●		●		●	●	●		※水曜の午後は入院患者の手術のみ ※午後の診療はPM2:00~	
泌尿器科	部長	山田潤	●				●				●		尿路結石、尿路腫瘍、前立腺疾患	
	医長	森光浩	●						●		●		体外衝撃波結石破砕術(ESWL)	
	医員	鳥山浩二			●				●				尿失禁	
	"	大仁田亨			●		●						※火曜の診療は外来までお尋ね下さい。	
産婦人科	診療部長	木寺義郎	●				●				●		産科・周産期医療	
	医長	鶴地伸宏	●		●		●		●				不妊症・内分泌疾患	
	医員	大塚未砂子	●		●				●		●		体外受精・胚移植術、腹腔鏡下手術	
	"	土井良順子											更年期外来・婦人科疾患	
眼科	医長	園田恭志	●		●		●	●	●	●	●		白内障手術・眼内レンズ挿入術、緑内障手術	
	医員	小林武史	●		●		●	●	●	●	●		網膜剥離手術、翼状片手術 眼瞼手術、レーザー光凝固術など	
耳鼻咽喉科	医長	後藤弘毅	●		●		●		●	●	●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療	
	医員	林田精一郎	●	●	●		●		●		●		小児の耳鼻咽喉科疾患 耳・鼻・咽喉頭・甲状腺などの手術	
放射線科	医長	大熊一彰	●						●				MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査	
	医員	富田直史			●		●						消化管造影、内視鏡検査	
	"	有川俊二									●		内視鏡下手術(ポリープ切除)	
	"	森有紀												
麻酔科	医長	深野拓	●		●		●		●		●		※月~金午前ペイン外来	
	医員	島本博子	●		●		●		●		●		※月~金午後は手術麻酔	
	"	稲沢昭子												
歯科	医長	七種敏行	●	●	●	●	●	●	●	●	●		歯科一般 ※診療は要予約	
神経内科	医員	黒川智美									●		神経内科疾患	